



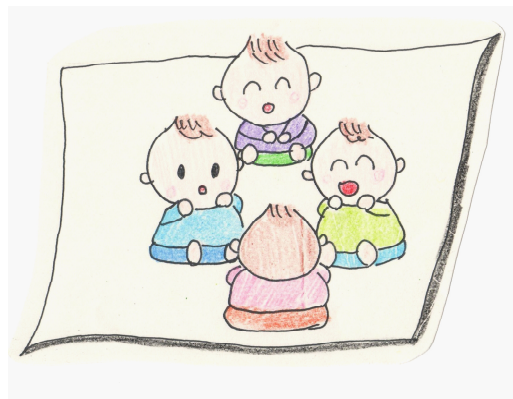
聴覚障害のある乳幼児とその保護者を支援するために

【研究を行った背景】

聴覚障害の発見は、これまで、1歳半健診やそれ以降の行動観察・ことばの獲得等によって行われてきました。

しかし、最近では、生まれてすぐに「新生児聴覚検査」を実施することで、聴覚障害を発見できるようになってきました。

このため、0歳台で聴覚障害が発見され、その後の療育や相談のために、聾学校の乳幼児教育相談を訪れるケースが増えてきました。



聴覚障害のある乳児に対する教育相談を行っている実践現場では、

- ・乳児期における聴覚の評価方法が多種多様でこえる状況を把握することが難しいこと
- ・乳児期の聴覚の発達を踏まえて補聴器を使用するタイミングの難しいこと
- ・我が子が聴覚障害であることについての保護者の不安や理解に対して支援すること

など様々な課題が生じてきました。

聾学校では、これまでの

- ・聴力の評価
- ・補聴器のフィッティング
- ・聴覚的支援

に加えて、対象となる子どもの低年齢化に伴う家族と子どもとのコミュニケーション支援についての対応が求められています。

具体的には、

- ・親子関係の確立への支援
- ・子育てや発達に関する相談への対応
- ・保護者の障害理解に対する支援
- ・他の障害を伴う子どもの指導

などです。

そこで、本研究では、聾学校の乳幼児教育相談担当者が、聴覚障害のある乳幼児を支援する際の心構えについて整理し、具体的な内容を明らかにしました。

【研究の方法・経緯】

聾学校の乳幼児教育相談（3歳未満児対象）及び難聴幼児通園施設を訪問し、新生児聴力検査によって聴覚障害と診断された乳児を対象とした教育相談事例について、担当者から直接状況を聴取し、乳幼児教育相談についての課題を取りまとめました。

その課題の主なものとして、

- ・聴覚的支援・発達支援
- ・初回の相談
- ・多方面領域機関との連携
- ・保護者や家族への支援
- ・幼稚園・保育園等への移行支援

などがあげられました。

実践事例の協議において、聾学校の乳幼児相談担当者の実践内容と保護者から多く寄せられる質問への回答などを整理し、Q&Aとしてまとめました。



【Q&A】

Q 補聴器とはどのようなものですか

A 補聴器は、きこえない・きこえにくい子どもまたは大人の方々の耳に音や声を大きくして送る機械です。しかし、補聴器を装用したからといって、すぐにことばがはっきりときこえるようになるとは限りません。補聴器を通して音そのものに気づくことから始め、徐々に段階を踏んで、音環境、言葉をきく環境を多くしていきながら慣れていきます。その間、必要に応じて補聴器の再フィッティングを行います。



Q 子どもとどのように遊んでよいかわかりません

A 遊び方をことばで説明するのではなく、担当者が子どもと楽しく遊んでみせましょう。そして、子どもが楽しく遊ぶこと自体が、子どもの発達を促すことを伝えましょう。きこえにくいからといって、子どもに黙って接していると、大人の表情がなくなります。自然にことばかけをし、楽しい雰囲気の中で遊べるように心がけることが大切です。

Q 幼稚園・保育所への入園にあたり、乳幼児教育担当者としてどのような配慮が必要ですか



A① 入園予定のお子さんについて幼稚園・保育所の先生に、お子さんの状況を伝えます。

まず、お子さんのきこえの状況、例えば、

- ・ 周りがうるさいと補聴器をかけていても伝わらない
- ・ 話をする時は顔を合わせて
- ・ 緊急時は音声では伝わらないことが多いので配慮して欲しい

などと、補聴器の扱い方等について伝える必要があります。

重要なことは、幼稚園または保育所の先生方にこのようなことを伝える前に、保護者のニーズ（引継ぎの必要性など）を伺っておくことが肝要です。

A② 入園後の支援については、保護者の要望をききながら必要に応じて行います。

幼稚園・保育所の先生方は、きこえない・きこえにくいお子さんを受け入れるのが初めての場合があります。引継ぎにおいて障害の特徴について伝えますが、幼稚園・保育所生活を行う中で、予想していないことが起こることもあり、これに対して「いつでも相談にのる」という支援の姿勢が大切です。

幼稚園、保育所の先生方の聴覚障害の理解を進めるために、聾学校を公開するののも一つの方法です。

【関連情報】

全国の聾学校では、聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談を行っています。

（参考資料）

- ・ 新生聴覚検査事業の手引き
厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）
「全出生児を対象とした新生児聴覚スクリーニングの有効な方法及びフォローアップ、家庭支援に関する研究」班（主任研究者：三科潤）；平成 14 年 3 月

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名】

聴覚障害乳幼児に対する早期からの教育的支援
（平成 15 年度～平成 17 年度）

【問い合わせ先】

研究代表者 小林倫代
（メールアドレス michiyo@nise.go.jp）

独立行政法人国立特殊教育総合研究所（National Institute of Special Education; NISE）

〒 239-8585 横須賀市野比 5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>